

頻用コード表作成作業における喫緊の問題点について

岡崎市民病院

山田 修

【基本方針】

- ・ 不統一の符番ルールに一定の方針を定め項目追加などに迅速に対応できるようにする。
- ・ 頻用コード表公開に向け、誤ったコードを正しいコードと紐付けができるようにする。
- ・ 改定版 JLAC10 作成までに、項目の網羅範囲を広げ改定版と現行版との乖離を減らす。

【対象項目】

別添え「要検討項目一覧.xls」を参照。

【問題点】

1. 尿検査、血液検査においていくつかの符番方法が想定され、ルールの統一が必要。
2. 尿沈査項目、血液像項目において施設毎の独自コードで運用されている項目がある。
3. 血液ガス分析項目においてコードが未定義の項目がある。

【検討ポイント】

・ 尿沈査の測定法として「662：フローサイトメトリー法」「701：無染色標本」「735：その他」「920：その他」が使われているが、推奨する測定法はどれか。

⇒ 自動化法は「662」「920」、染色法は「701」「735」を選択する。

(関連する医事点数は、尿沈査(鏡検法)、尿沈査(フローサイトメトリー法)、染色加算)

・ 血液像の測定法として「662：フローサイトメトリー法」「301：血球算定」「309：機械法」「310：鏡検法」「604：パッペンハイム染色」「605：ライトギムザ染色」「920：その他」が使われているが、推奨する測定法はどれか。

⇒ 「301」「309」「310」から優先的に選択する。

(関連する医事点数は、末梢血液像(鏡検法)、末梢血液像(機械法)、好酸球数)

・ 尿沈査、血液像において自動判定と目視法が併用される場合がある。

⇒ 併用される場合は、「自動判定→目視」という流れが一般的とおもわれるが、「自動判定」と「目視」のどちらの該当コードを使用すべきか制限をしない。ただし、方法が限定される場合は該当コードを用いることとする。

・ 血液像検査における材料として「019：血漿(添加物)」「034：血液塗抹標本」が使われるが、推奨する材料はどちらか。

⇒ 採血検体から処理を行う場合は「019」を推奨し、持ち込みなどで検査材料として塗抹標本を直接扱う場合などに「034」を用いる。

・ 尿定性検査におけるセットと単項目で共通する項目のコード符番方法。

⇒ セット依頼に対する結果項目は、結果識別コードでの分類とする。単項目依頼の場合

に固有の分析物コードを用いる。

- ・ 未定義項目のコード決定。

⇒ 血液像は、運用事例をもとに結果識別（共通）部分も含めて血液像項目として割り振る。尿沈査、血液ガスなどの未定義項目は結果識別を割り振ることを基本としてコードを決定する。

- ・ 血液ガス分析項目において、測定値（計算値）と補正值が存在するケースがあるがどのように区別をつけるか。

⇒ 新規で識別コード「計算値」を作成する。